

平成 28 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

京都大学理学研究科地球惑星科学専攻 片上智史

この度、日本地震学会による海外渡航旅費助成を受け、2016 年 12 月 12 日から 16 日までの 5 日間にサンフランシスコで開催された American Geophysical Union (AGU) Fall meeting 2016 に参加・研究発表をして参りましたので、その成果を報告させていただきます。

今大会に参加する上で目標としていたことの 1 つである「自らの研究を世に知ってもらおう」ことを無事果たすことができました。今回”Micro low-frequency tremor near the Japan Trench before the Tohoku-Oki earthquake”という内容で口頭発表を行わせていただきました。この研究は地震学会秋季大会等で発表させていただいておりましたが、研究内容の詳細まで議論を行いたいと考えていたためポスター発表を中心に行っていました。しかしポスター発表では聞きに来ていただける人数が口頭に比べどうしても少なくなってしまう、皆さんに自分の研究を知ってもらおうという点では口頭に劣ります。したがって、研究内容も精査できてきたこの機会に世界中に研究内容を知ってもらいたいという思いから口頭発表を申し込みました。研究内容を知ってもらう点は問題なくクリアできましたが、それ以外に英語でのプレゼンテーション能力の欠如や英語の発音の不得手などいくつか問題も明らかになり、今後改善すべき課題を見つけることもできました。私はプレゼンの際重要な点や話が少し変わることを知らせる際抑揚を使用します。しかし、英語での発表経験の少なさからかどのタイミングで抑揚をつけるべきかよくわからず、淡々とした発表になってしまったことが反省すべき点となりました。したがって発表後他の研究者の口頭発表では、研究内容だけでなくプレゼンの技術も注視しました。

助成金申請時に提示した「世界中のスロー地震に関する研究の最新情報を知る」ことも無事に果たせました。今大会ではスロー地震に関する大きなセッションが 2 つありました。片方は地震学的知見からスロー地震を解き明かすセッション、もう片方は地質学的知見から解き明かすセッションでした。今大会で特に印象的であったのが、一口にスロー地震といってもこれらの現象を解き明かそうとする研究者が非常に多方面にわたっていることでした。地質学的セッションではスロー地震の露頭での痕跡を蛇紋岩とする人や石英脈にする人にする人など様々でした。また InSAR からスロー地震を検出しようとする研究者がいたことも驚きでした。このように、日々進歩する科学の最先端を知ることができたことは大きな成果です。

最後になりましたが、日本地震学会による海外渡航旅費助成金により、AGU への参加・海外の研究者との議論・そして発表という大変貴重な経験を得ることができました。このような貴重な機会を与えてくださった日本地震学会の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。